

この度、山口県下関市に本部を置く“劇団はぐるま座”が10数年ぶりに竹田市にやってきます！
演目は幕末激動の時代、新しい日本をめざして命を燃やした高杉晋作と、明治維新の原動力となった農民・町人・商人の熱い生き様を描いた『動けば雷電の如く』。

「舞台は文久3年から翌元治元年、翌々年の慶応元年。つまり1863年から1865年にかけての長州藩のたたかい。この2年間に明治維新最大のドラマがあるのです。およそ260年続いた徳川の時代。「百姓とゴマの油は絞れば絞るほど出るものなり」。血の出るような搾取の上に成り立つ幕藩体制はすっかり行き詰っていました。その上に、欧米の資本主義列強がアジアを次々と植民地にしていく。その勢いが中国を襲い、ついに日本にも迫ってきました」(劇導入部の台詞より)。



150年前の内憂外患一時に迫る国難のなか、諸外国の植民化の波をはねのけ、徳川幕藩体制を打倒して近代統一国家をつくりだした社会革命—明治維新を成し遂げた日本民族の誇りを現代に！九州一円はもとより全国で大きな感奮を呼び起こしている『動けば雷電の如く』。魂を揺さぶる渾身の舞台。この機会には是非ご覧ください！以下、大分県内で観劇された方の感想です。

- ▼クオリティー高すぎ！寝れなくなるほどの熱い興奮が心に宿りました。(別府市・クリーニング店主)
- ▼全員が座長の感。迫力があり素晴らしい。当時の庶民の気持ちがよく出ていた。解説によって時代の流れが良く分かる。(大分市・90歳・男性)
- ▼ともすれば現代は便利さと豊かさに溢れているように思われがちですが、バーチャルな世界観の中で生き、リアルな世界にそっぽを向いて心貧しく生きる人間も少なくありません。そんな現代だからこそ、ひとりでも多くの人達がこの劇に触れ、人間の奥底にあるリアルを呼び起こし、各人の生き方に反映させることができたら、未来に向け、良き流れをつくることのできるのではないのでしょうか。(中津市・母親)
- ▼日本(天皇・幕府)・長州藩・欧米・大名・農民・庶民がそれぞれの思惑の中で歴史が動き、特に欧米列強のなか、不平等条約に屈した幕府と欧米に反旗を翻した農民・庶民が意思と志を持ち、行動を持って物事に向かい、意思と志をやり遂げる先人の歴史を学ぶことができた。(JA職員)
- ▼今の日本人にとって普遍的な価値を持った舞台だ。自信を持ってお勧めしたい！(臼杵市・ツーリズムガイド)
- ▼高杉晋作辞世の句—“面白きこともなき世を面白く”。私の大好きな言葉です。本物の高杉さんに出会えた気がします。勇気と感動をありがとう！(40代・飲食店経営・男性)

竹田公演は5月31日(日)久住公民館(くじゅうサンホール)
午後2時開演。前売券は一般3000円、中高生1500円、小学生800円。全日食チェーンショッピングあだち、

(有)志賀金物店、竹田町商店街振興組合、内藤陶器店、進賞堂、ハヤシスポーツ、DOT CLUB、Yショップ長湯、秦精肉店、夢カラオケ大将、Yショップ萩コスモス、アルク、理容くどう、理容ゴトウなどでお求めください。



詳しいお問い合わせは 劇団はぐるま座(☎083-254-0516)まで。皆様のご来場お待ちしております！